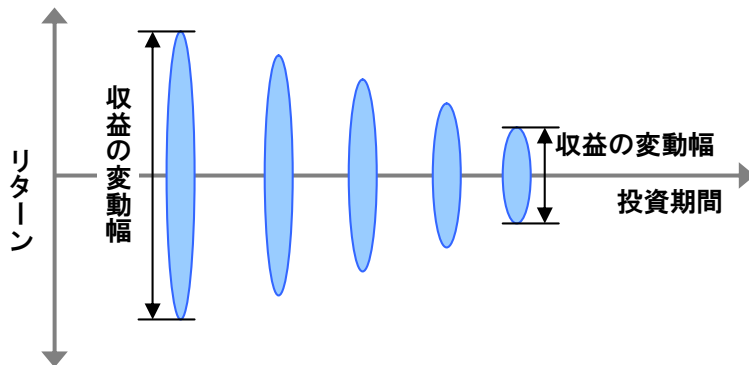


リスクと上手に付き合う方法は

■長期運用とは？

たとえば、株価は短期的にはその時々々の経済や政治などの影響によって、大きく値上がりしたり値下がりしたりすることがあります。ところが長期で見ると、短期的な変動が緩和されていく傾向があります。



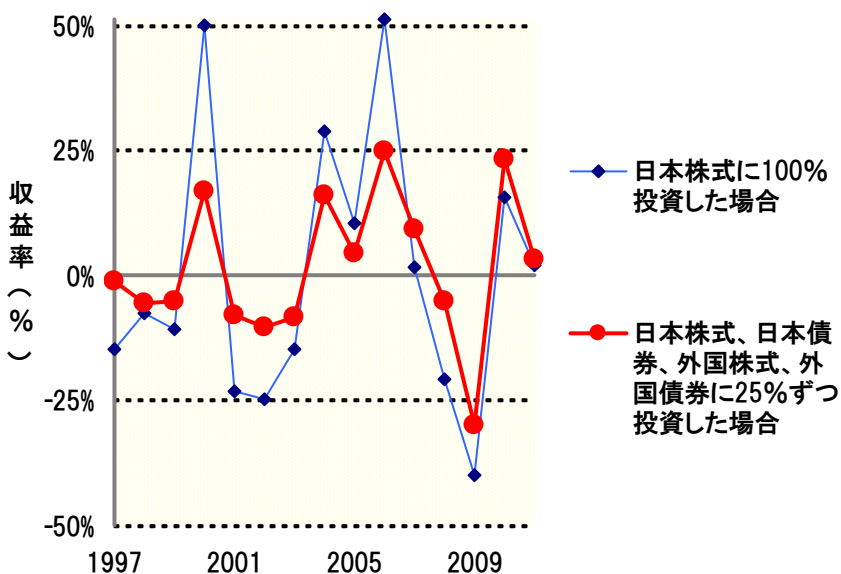
長期投資をすることで、リスク（収益の変動幅）を抑える効果が期待できます。日々の価格変動に一喜一憂するのではなく、長期的なスタンスで臨むことが大切です。

■分散投資とは？

◇資産の分散

一般に値動きの異なる債券や株式などに併せて投資すると、値動きが安定するといわれています。下図を見ると、日本の株式だけに投資するのと比べて、日本の債券や、外国株式、外国債券にも投資した方が、収益の変動幅が小さくなっていることがわかります。

株式や債券といった投資対象、日本や外国といった投資地域、投資通貨など、値動きの異なる複数の資産に分散投資することで、一方が値下がりしても他方が値上がりしてカバーしてくれる効果を期待できます。



株式や債券、国内や海外など、特性や値動きの異なる複数の資産に分散投資することで、お互いの値動きの変動幅を打ち消し合い安定性が増します。

日本株式：投信インデックスTOPIX連動型、日本債券：投信インデックス国内債券型
外国株式：投信インデックス外国株式型総合、外国債券：投信インデックス外貨建て債券型総合 で代替
※上記投信インデックスは、収益分配金を考慮した純資産加重平均型の指数です。

※上記収益率は、各年1月末のインデックスの値に基に算出した年次の収益率です。収益率は過去の実績であり将来の成果を約束するものではありません。
(出所：アーティス)

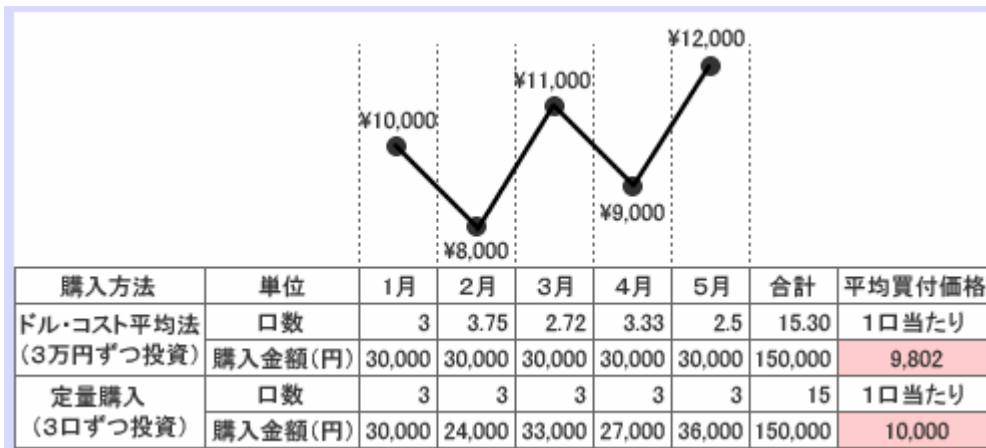
◇時間の分散

投資するタイミングを分散（購入時期を分散）して継続的に投資する「ドルコスト平均法」という手法があります。この方法では、すべての資金を一度に投資せず、一定金額ずつ定期的に継続して投資するため、一度に投資するよりも購入価額を平準化させる効果が期待できます。

また、基準価額が安いときには購入数量が多くなり、基準価額が高いときには購入数量が少なくなるので、定期的に同じ数量（口数）を購入し続けるより平均購入価額を安くすることができます。

ある投資信託（ファンド）を、毎月同じ金額で購入した場合と同じ口数購入した場合とを比較してみましょう。

【ドルコスト平均法と一定口数（定量）購入した場合の比較】



投資するタイミングを分散してコツコツと継続投資することで、一度にまとめて投資するよりも、平均購入単価を平準化させることができます！

「いつ買えばいいの？」と悩む必要もありません。

※上図の数字はあくまで仮定であり、将来の成果を約束するものではありません。

※算出にあたっては、購入時の手数料・税金・分配金等を考慮していないため、実際の投資とは異なります。